



c.com

2023.Apr vol. 87

平和とより良き生活のために
広島県生活協同組合連合会

リーダーシップの本質を探る

—現代に通じる上杉鷹山の藩政改革に学ぶ—

ウクライナ戦争は食料とエネルギーの価格高騰を招き、家計を直撃しました。海外への依存度が高い食料やエネルギー分野で顕在化した危機管理の弱さです。この間日本はくらしの根幹を支えている食料やエネルギーの自給率アップ対策が後手に回り、食料自給率はカロリーベースで38%、エネルギーは12%しかありません。生命やくらしの安心に不可欠な医療・福祉についてもコロナ禍でその脆弱さが露呈しました。

大きな危機に直面している今日、様々な場面でリーダーシップのあり方が問われています。転換期におけるリーダーシップの本質を探る場合、歴史の教訓に学ぶ以外に道はありません。

リーダーシップの本質を探るとき上杉鷹山、二宮尊徳、渋沢栄一、賀川豊彦などの顔が浮かびますが、なかでも鷹山は江戸中期に米沢藩の藩政改革の土壤をつくり多額の借金を返済したこと、江戸時代屈指の名君といわれました。また鷹山は2007年に読売新聞が行った全国自治体首長アンケート(理想のリーダー)で第1位となり、アメリカの第35代大統領のジョン・F・ケネディに「最も尊敬する日本人は上杉鷹山」といわしめた人物もあります。以下鷹山の足跡をたどり現代におけるリーダーシップの本質を探ります。

今から約250年前の日本は身分制度が社会全体に根を張っていた時代です。鷹山が17歳で藩主となったとき、米沢藩は莫大な借金(20万両、現在の150~200億円)をかかえ、田畠は荒れ果て農民のくらしは困窮を極めていました。鷹山は領民のくらしを第一義的に考え、自ら僕約に努め、新たな産業(養蚕、織物、漆器など)を起こし、財政の立て直しを図りました。当時は領民のくらしを豊かにするという考え方(民富)や藩主自らが農村に出向き農民の声を聞くことなど考えられませんでしたが鷹山はそれを貫きました。

また鷹山は長寿者と15歳以下の子持ち者への手当の支給など、高齢者や子どもを大切にしました。天明の大飢饉(1782~1788年)の際は、他藩では多くの餓死者を出しましたが、米沢藩では一人の餓死者も出さなかったといわれています。それは、有事に備え、穀物の備蓄と救荒(きゅうこう)食物(かて物、ヒエ、ソバなど代用食物)の研究と準備を怠らなかったからです。さらには改革を止めることなく持続可能な藩政を維持するため人材育成にも力を注ぎました(農民や商人も受講できた藩校「興譲館」の開校など)。

しかし藩政改革は順調に進んでわけではなく、既得権益にしがみつき改革に抵抗する重役7名の存在は鷹山を苦しめました(七家(しちけ)騒動)。そのような中、鷹山は信念を曲げず7名の処分を決行しました。結果として、その決断が藩士や民の心を動かし、領民のくらしや財政は徐々に改善され借金もすべて返済されました。

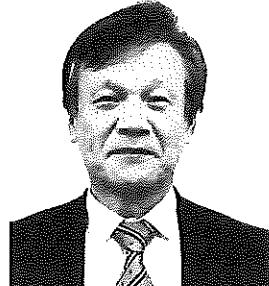
藩や武士の古い体質からの脱却は容易ではありませんでしたが、鷹山はその壁を壊すため、①情報はすべて共有し(情報開示)、②職場での討論を活発に(心理的安全性)、③その合意を尊重する(民主主義)、④現場を重視する(現場第一主義)、⑤組織や職場に愛と信頼の念を回復することに徹しました。そして名言「なせば成る、なさねば成らぬ何事も、成らぬは人のなさぬ成りけり」は藩政改革への強い意志を表しており、どんなことでも強い意志を持ってやれば、必ず結果ができる。できない言い訳ではなくできる努力の大切さを説いています。

よって鷹山のリーダーシップの本質とは“リーダーの人格(利他の心、思いやり、ぶれない信念)と火を点けること(種火から他の炭に広がるように、民の心に火を点すこと)”に收められます。

上杉鷹山の藩政改革を現代に引き寄せると、これから日本の方向性は生命の維持やくらしの根幹を支える“FEC自給圏づくり”を軸とした地域循環型社会経済システムの形成への転換です。すなわち日本が現在最も優先すべき課題は食・食料(Foods)、エネルギー・環境(Energy)再生可能エネルギーの拡充)、医療・福祉(Care)を生命基礎産業として位置づけ、その周辺にセイフティネットを張りめぐらした新たな社会建設への挑戦です。

この新たな社会建設は食の安全安心・環境・医療・福祉・助け合いなど地道に活動を続けている生協の実践と重なります。よって現段階における生協の最大の使命は、平和と連帯を土台に、組合員の声や組合員が住んでいる地域の課題に真正面から向き合い、「誰もが安心してくらせる持続可能な地域コミュニティの再生」をめざすことです。その軸をぶらさず強い意志と信念を貫くことこそが生協における今日的リーダーシップの本質だと考えます。

そしてマネジメント大切なことは、“他者への配慮、心遣い、共感等が充満し、安らかな雰囲気をチーム内に育めるかどうかがポイントです(心理的安全性)”。すなわち信頼を土台にお互いを認め合いの本音で話し合いができる関係が個々の力を發揮させ、その結集と協同の力が新たなエネルギーを創造させるため、リーダーは組織の中で常に“心理的安全性”を育みつづけることです。



広島県生活協同組合連合会
会長理事 岡村信秀

心理的安全性とセキュアベース・リーダーシップ

心理的安全性の考え方はセキュアベース(Secure Base)・リーダーシップに類似しますが、先の第5回WBCで日本を世界一に導いた栗山英樹監督の指導はセキュアベース・リーダーシップの典型だと指摘する専門家がいます。ちなみにグーグルが2012年~14年に5万人の社員を調査分析した「チームワークと生産性」での結論でも「心理的安全性」の重要性が浮きぼりになりました。上杉鷹山のリーダーシップも根っこどころは同じように感じます。

2023
年度

新入職員の決意表明

2023年4月、今年多くの職員が新たに入協しました。4月13日(木)に開催された初級職員研修会に参加した新人職員の決意表明を紹介します。

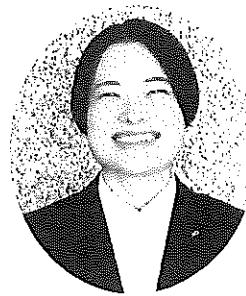
生活協同組合ひろしま／山本 実莉

【決意表明】

私は、信頼されることを大切にしていきたいです。一つ一つの行動に対して、これは信頼される行動かどうか、自分がされて嬉しいかどうかを考えて行動していくことで、組合員さんや仲間から信頼される人になれるよう努めたいです。

①今回の講義内容で印象に残ったこと

もしも核実験などが行われ、粉じんがあがれば放射能汚染だけでなく、地球全体が影響を受けることになるため、特定の地域だけの問題ではないというお話をとても印象に残りました。また、リサイクルよりもリユースの方が環境に良いと思われがちだけど、今どういう状況にあるのかを把握したうえで判断しないとて的確な判断をくだすことはできないともおっしゃられていたので、プロセスをみたうえで判断できるようにしていきたいと思いました。



②今後、仕事に生かしていきたいと思うこと、「今自分たちができること」

私は、これから配送の仕事をするので「居住地を包摂的・安全に持続可能にする」という(SDGs)11番の住み続けられる街という目標を意識していきたいです。具体的には、配送で地域をまわる時に、地域の状況をしっかりと確認し、何か変なことはないか、おかしな様子はないかを見守りたいと思います。まずはそうした自分にできる少しのことから始めて、その後どんどん他のことも意識していけるように取り組んでいきたいと思いました。

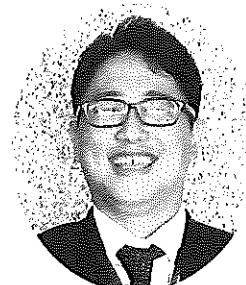
広島医療生活協同組合／市川 勇祐

【決意表明】

人とのつながりを大切にしていきたいです。

①今回の講義内容で印象に残ったこと

生協ひろしまの子育て支援を私自身も利用しており、子育てグッズの提供や“はじめてばこ”がとてもありがたかったので今後も継続してほしいです。碑めぐりや被爆証言を通じて、今の平和のありがたみと平和ということがあたり前ではないんだなと感じました。私一人の力は小さいものであるけれども、平和を維持するため投票などできる行動は行っていきたいです。



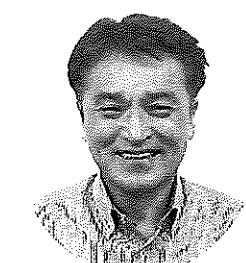
②今後、仕事に生かしていきたいと思うこと、「今自分たちができること」

理学療法士として、病院の利用者の方を元気づけるために業務に取り組むだけでなく、必要とされれば地域の活動や災害時の支援など地域との関わりも大切にし、みんなで健康になれるよう仕事に取り組んでいきたいと感じました。

広島県生活協同組合連合会／塩野 猛

4月から広島県生活協同組合連合会の事務局スタッフとして着任しました塩野 猛です。

生協ひろしまの職員として事業と活動をおこない、3月末までコープC Sネット(中国四国事業連合)で12年間、各生協の職員・組合員さんと共に商品活動やサンゴ礁再生事業などの活動を日々取り組みました。この度、平和担当としてあらたなステージで活動をしてまいります。先日おこなわれた広島県連初級職員研修では短時間でしたが新人の皆さんと同様にフレッシュな気持ちだけは県連の新人として負けない様に一からスタートしていきます。不慣れな点が多く、皆様にご迷惑をお掛けする点もあると思いますが何卒よろしくお願ひします。



広島県内における生協活動が益々発展し、職員、組合員の暮らしに寄り添い、少しでも貢献できるように頑張ってまいります。

2023年度 重点課題!

広島県生協は、県内生協の連帯の場であり、組織・事業面での支援や連帯活動を推進しています。「戦争と核兵器」「環境破壊」「少子高齢化」「新型コロナ」「格差社会」「物価高騰」「エネルギー危機」など、私たちを取り巻く厳しい環境の中、“協同の力”を発揮して組合員の暮らしの向上と地域社会づくりに取り組む広島県内生協の2023年度重点課題（トップの思い）を紹介します。

※組合員数、事業高、出資金は
2021年度決算の数値です。



【医療福祉生協】 広島医療生活協同組合

医療事業では5類となった新型コロナの感染再拡大に備えつつ事業を回復し、介護福祉事業では昨年度開設した「定期巡回ふれあい協同」の事業を地域の要望に応え軌道に乗せ、他の拠点や地域での新たな地域密着型事業の開設を検討します。組合員活動では、コロナで繋がりが途切れ孤立化によりフレイル（虚弱化）が進んだことから、繋がりを再構築しサロン・たまり場でのフレイル予防・健康づくりを進めるとともに、平和と憲法を守り、社会保障充実の運動をすすめ、安心してくらせる明るいまちづくりの実現をめざします。

設立 1967年5月
代表者名 理事長 坂本 裕
組合員数 42,142人
事業高 6,322,237千円
出資金 1,370,299千円
所在地 広島市安佐南区中須二丁目19-6
TEL 082-879-1111



理事長 坂本 裕

【医療福祉生協】

広島中央保健生活協同組合

広島中央保健生協は、2023年度より2027年度までの5か年計画としての第7次長期計画案を、2023年6月に開催される総代会に提案します。「日本国憲法が生きる平和な社会を実現し、誰もが健康で居心地よくくらせるまちをつくります」とのスローガンを掲げ、「安心づくり」と「健康づくり」を地域での組合員活動の柱に据え、「地域の病床」として地域のニーズに即した医療機関の責任を果たし、「生協10の基本ケア」の実践を進める地域密着事業の展開にも力を注ぎます。2023年度はその初年度として5年間の道筋を拓いてまいります。

設立 1955年9月
代表者名 理事長 福山 慎二
組合員数 29,666人
事業高 5,624,788千円
出資金 1,263,097千円
所在地 広島市西区観音町16-19
TEL 082-292-3179



理事長 福山 慎二

【医療福祉生協】

福山医療生活協同組合

福山医療生協の中心テーマ「誰もが健康で居心地良く暮らせる街づくりを目指します」

日本の極端な少子・超高齢化は、今後、地域で高齢者をどう支えていくのかが大きな問題となっています。当生協では、医療と介護事業があり、医療や介護が必要になっても在宅で生活するための支援を行っていますが、現実的には限界があり、入院や施設入所をせざるをえない状況にあります。

2023年度の課題は、生協の協同の力と医療・介護事業をフルに活用し、さらには新たな介護事業を模索し、高齢者が住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせるまちをつくることです。

設立 1980年1月
代表者名 理事長 服部 融憲
組合員数 11,921人
事業高 636,785千円
出資金 399,548千円
所在地 福山市木之庄二丁目7-2
TEL 084-973-2280



専務理事 乃美 康志

【地域購買生協】 日立造船因島生活協同組合

変革の一年

22年度は店舗事業からの完全撤退を完了し、6年ぶりの黒字に転換できました。店舗事業から因島生協が成長した経緯もあり店舗閉店の影響で出資の減資・脱退が激増しました。また減損等で債務超過に陥り2年間を目途に出資金の凍結をさせて頂きました。23年度は宅配事業と葬祭事業の2本柱を中心に事業安定を確立させ、この間の赤字経営で進まなかった職員の待遇改善や施設の投資や改修を予定しています。職員と組合員に復活した因島生協を示す1年になる事を目指します。

設立 1949年11月

代表者名 理事長 神野 孝光

組合員数 12,330人

事業高 1,981,079千円

出資金 344,857千円

所在地 尾道市因島中庄町3180-6

TEL 0845-23-7701

常務理事 箱崎 弘



【地域購買生協】 生活協同組合ひろしま

コロナ禍から次第にコロナ前の環境に戻りつつある2023年度。事業の環境は行動制限の解除や日常生活への回帰が進むほどに以前の事業環境の状態に近づくこととなり、かなり厳しい環境となると考えています。このような環境だからこそ、生協としての事業の特性や強みを發揮することを第一に、この間培ってきた行政との連携協定の実行や関係団体との連携強化を図りながら、着実に事業を発展させていくことが必要です。購買事業では生協の店舗のあるエリアで宅配事業との連携を図り、具体的な併用利用の良さを実感していただく取り組みを強めます。また、コープアプリも内容を深化させ、より身近な情報をタイムリーにお届けできる内容を付加すると同時に、より利用しやすい形にして組合員さんに提供します。福祉事業では廿日市エリアにおいて新たに地域密着型サービスとなる、定期巡回・随時対応型訪問介護看護への取り組みにもチャレンジします。引き続き組合員とともに地域の問題にもタイムリーに対応できる生協ひろしまを目指します。

設立 1971年5月

代表者名 理事長 横山 弘成

組合員数 399,596人

事業高 51,229,100千円

出資金 13,261,840千円

所在地 廿日市市大野原一丁目2-10

TEL 0829-50-0350

理事長 横山 弘成



【地域購買生協】 竹原生活協同組合

竹原生協は今年で60回目の総（代）会を迎えます。この間、組合員サービスの向上に向け事業を行い、燃料事業・共済事業を展開しております。

燃料事業は組合員の安心・安全の確保のため、平成24年度から導入したLPガスの集中監視システムを全て設置できるよう取り組んでいます。共済事業も組合員に安心な生活を送っていただくため、保障の提案・見直しといったライフプランニング活動にも取り組んでおります。

生協運営の基盤は組合員であり、消費者となる方々です。組合員のニーズにどう応え、どう対応するか。『みんなでやりきろう』を合言葉として頑張っていきます。

設立 1964年5月

代表者名 理事長 賀楽 幸利

組合員数 7,224人

事業高 111,363千円

出資金 218,726千円

所在地 竹原市中央1-9-11

TEL 0846-22-2636

理事長 賀楽 幸利



【地域購買生協】 グリーンコープ生活協同組合ひろしま

2023年度グリーンコープひろしまは、30周年を迎えます。

対面での行事開催を考えられる状況となり、11月には記念イベントを開催する予定です。組合員とメーカー・生産者の方々が交流できる場となるよう準備を進めています。

これまで、グリーンコープはせっけん運動やリユース・リサイクルなどの4R運動で環境を守る取り組みを行ってきました。そして、国産食糧の利用をすすめるフードマイレージ・ポコの取り組みも行っています。昨今、深刻化する気候危機に対して、さらにカーボンニュートラルの取り組みを進めていきたいと考えています。

設立 1993年6月

代表者名 理事長 前津宗 八州恵

組合員数 20,838人

事業高 4,111,633千円

出資金 1,119,760千円

所在地 広島市佐伯区八幡東4丁目41-12

TEL 082-927-1503

理事長 前津宗 八州恵

【学校・高校生協】
広島県学校生活協同組合

学校生協の主な職域である小・中学校の教育現場は組合員（教職員）の多忙化が進んでいます。近年は多くの教職員が定年退職を迎え、新規採用教職員も増えていますが、以前と比べて新規組合員の加入率が低下して、生協の利用実績も減少傾向にあります。

しかし、学校生協は戦後の混乱期、物資不足に苦しんだ教職員の切実な願いの中で設立されました。その精神は現在も引き継がれています。教職員の暮らしを支え、児童・生徒の教育環境を充実して行くという設立の趣旨を大切にして、生協活動に取り組んでまいります。

設立 1948年12月
代表者名 理事長 難波 隆宏
組合員数 17,680人
事業高 395,223千円
出資金 313,424千円
所在地 広島市東区光町二丁目8-32 エコード広島
TEL 082-264-3311



理事長 難波 隆宏

【大学生協】
広島大学消費生活協同組合

2023年4月から、法学部昼間コースが東広島キャンパスから東千田キャンパスに移転することにともない、当組合も大学が建設した新棟1階に食堂とショッピングを移転、リニューアルオープンしました。これまで東千田キャンパスは法学部・経済学部の夜間主コースと、法科大学院など一部の学生・院生のためのキャンパスでしたが、新店舗での利用拡大を図り、東千田キャンパス活性化の一助となればと考えています。

広大生協全体では、コロナ禍の影響で経営は非常に厳しい状況が続いているですが、2023年度から、これまでオンライン授業が継続されてきた、語学等の授業が一部対面での開催となる予定のため、更なるキャンパス人口の回復が期待できます。大学が行う福利厚生事業の一部を担っていることを今一度かみしめて、あらためて学生の学びと成長に貢献できる広大生協を目指します。

設立 1972年2月
代表者名 理事長 細野 賢治
組合員数 16,780人
事業高 2,469,966千円
出資金 241,025千円
所在地 東広島市鏡山町一丁目7-1
TEL 082-424-2525



専務理事 塩崎 昌也

【学校・高校生協】
広島県高等学校生活協同組合

定款第1条で高校生協の目的は「協同互助の精神に基づき、民主的運営により組合員の文化的・経済的改善向上を図る」こととされています。教職員の福利厚生団体として事業を行っている組織であり、今後も組合員の仕事や生活をサポートするための「ライフパートナー」を目指していきます。

2023年度は、学校における「働き方改革」による事業環境変化に対応し、アフターコロナを見据えた事業展開を模索していくこと、「SDGs」の取組みを通じて社会に貢献していくこと、高校生協の認知度を上げ生協ファンを増やすことを進めて事業推進に取り組んでいきます。

設立 1957年1月
代表者名 理事長 城 太志
組合員数 5,671人
事業高 274,055千円
出資金 145,153千円
所在地 広島市中区大手町三丁目13-18 松村ビル4F
TEL 082-244-2311



専務理事 宮島 直哉

【大学生協】
広島修道大学生活協同組合

2020年3月から丸3年間にわたり、学生生活を制限せざるを得なかった、コロナ禍の状況から、2023年4月からは、大学への入構制限も解除され、食堂の席数も2019年以前の状態に戻すことが決まりました。コロナ禍以前のキャンパス風景に戻ることを大いに期待しています。

今年度の重点課題は、学生との繋がりを一層強くすることです。これまで学生の声を大切にしていましたが、対面でのイベント復活により、更に学生の声を聴き、利用促進につなげたいと考えます。また引き続き、学生の願いが叶う様に、ひと言カードでの品揃えリクエスト実現に拘ります。

設立 1972年11月
代表者名 理事長 山崎 敏俊
組合員数 7,944人
事業高 422,740千円
出資金 77,094千円
所在地 広島市安佐南区大塚東一丁目1-1
TEL 082-848-1097



専務理事 長谷川 英男

【大学生協】

福山市立大学生活協同組合

福山市立大学生活協同組合は、2017年12月に設立し、昨年度で5周年を迎えました。

5周年を記念して、組合員向けに5周年記念の還元セールを実施し、多くの方に喜んでいただけました。大学の各種行事も通常に戻りつつある中で6年目に突入しましたが、次の10周年20周年とこれからも福山市立大学に根ざす福山市立大学生協として、組合員に近いところでの事業活動を続けることを心がけてまいります。

設立 2017年12月

代表者名 理事長 古山 典子

組合員数 1,028人

事業高 70,427千円

出資金 20,545千円

所在地 福山市港町二丁目19-1

TEL 084-973-5533

専務理事 塩崎 昌也



【労生協】

広島県労働者共済生活協同組合

広島県労働者共済生活協同組合は、58会員で構成するこくみん共済 coop（全国労働者共済生活協同組合連合会）の会員として、こくみん共済 coop の理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の実現にむけて活動を展開しています。

2023年度はこくみん共済 coop 中期経営政策2025～変革と創造～のもと、お役立ち発想と共創活動により、共済を通じた人と人とのたすけあいの輪をむすび、組合員に寄り添う活動を展開します。

設立 1959年1月

代表者名 理事長 寺戸 裕司

組合員数 277,185人

出資金 2,204,257千円

所在地 広島市東区曙四町目1-28

TEL 082-262-6031



理事長 寺戸 裕司

【葬祭生協】

三共生活協同組合

2023年度重点課題

三共生活協同組合は、平成9年地域の葬祭事業を行う協同組合として法人化し、以後毎年主たる事業と併せ、社会奉仕活動・社会貢献事業を取り組んで参りました。

2023年度も例年どおり、地元世羅高校陸上部・国際交流推進会議及び各種地域活動等の支援を行ってまいります。それに加え特に本年度は、新型コロナウイルスの蔓延の影響により葬儀の形態が一変したことから、組合員のニーズにお応えし、より利用しやすい施設として改善すべく、委員会を設置し検討を進めいくこととしています。

設立 1997年9月

代表者名 理事長 宮川 哲二

組合員数 4,637人

事業高 158,330千円

出資金 57,271千円

所在地 世羅郡世羅町大字寺町2114

TEL 0847-22-3040



理事長 宮川 哲二

【事業連合】

生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合

社会や経済環境の変化が激しいことが予想される2023年は、ポストコロナを見据ながら、DXを活用した宅配リノベーションの取り組みに加え、若年層の参加とご利用の高い高齢者世帯の皆さまへの暮らしに寄り添う品揃えからカタログ等の改善を積極的に進めてまいります。

また、今年はコープCSネット「第7次中期計画」の初年度となります。「社会の構造変化に向き合い『会員生協と共に新たな価値を創造する』」をコンセプトに、会員生協の皆さまと一緒に持続可能な社会につながる事業を目指した取り組みを進めてまいります。

設立 2005年10月

代表者名 理事長 小泉 信司

組合員数 9牛協

事業高 88,564,101千円

出資金 1,091,000千円

所在地 広島市東区二葉の里一丁目1-46

TEL 082-236-6835



理事長 小泉 信司

【賛助会員】

**労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団山陽事業本部
広島市「協同労働」プラットフォーム**

**労働者協同組合法人として迎える2023年度を新たな気持ちで挑戦します!
労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団山陽事業本部2023年度の方針**

2020年12月4日に労働者協同組合法が与野党・全会派の一一致で成立し、2022年6月13日の一部法改正を経て2022年10月1日に施行されました。私たち日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会は1986年に発足して以来、働くものや市民が自ら出資して組合員となり、事業・経営を主体的に担い、生活と地域に必要な仕事を協同でおこし、よい仕事へと高めることを「協同労働」と位置付け取り組んできました。

現在、介護や子育て、建物管理、指定管理事業や生活困窮者事業などに取り組み、広島県内では、広島市をはじめとして三原市、呉市、福山市に11拠点を持ち、介護や子育て、建物管理、指定管理、生活困窮者事業などに取り組んでいます。こうした労働者協同組合としての実態を全国で作りつつ、国内未整備であった労働者協同組合法の制定を求めて、20年間法制化運動にも取り組んできました。こうした実態と、少子高齢化、格差貧困、環境破壊等の私たちを取り巻く社会状況があり、この度、労働者協同組合法が成立しました。

法施行から半年が経ち、厚生労働省に窓口が設置され、全国を7ブロックにわけて労働者協同組合法周知・広報フォーラムが開催され、およそ2500人が参加されました。全国の都道府県にも労働者協同組合の窓口が設置され、各都道府県でも労働者協同組合法の広報・周知セミナーが行われています。広島県でも雇用労政課が窓口となり広報周知セミナーが開催されており、廿日市市では市職員向けセミナーも開催されました。現在1都1道1府15県で計34法人が設立され、私たち日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団も、2023年4月1日よりNPO法人から労働者協同組合へ法人移行し、正式に労働者協同組合として出発します。そうした中で2023年度は

1. 労協法・協同労働を地域に伝え、広げ、新たな労働者協同組合法人の設立支援と協同労働の仲間を広げていく

2. 事業所がある自治体すべての首長懇談を申し入れ、協同労働を自治体政策に位置付ける

3. まちづくり講座、仕事おこし講座、中村哲氏映画上映会に取り組み、市民主体のまちづくりに取り組んでいく

4. 2030年の大分岐に向けて中長期事業計画を今年度中に策定する

以上の4つの方針を立てて、広島県内に広く労働者協同組合の周知広報に取り組みながら、協同のまちづくりに取り組んでいきます。

広島市協同労働促進事業について

広島市は「協同労働」に注目し、2014年度から広島市「協同労働」モデル事業をスタートしました。この事業は、法人格に関わらず、広く「協同労働」という働き方や理念を市民に広げようと、広島市「協同労働」プラットフォームを設置し、協同労働の周知啓発や実際に事業を立ち上げる際や、立上げ後のフォローアップも含めて支援しています。このプラットフォームを私たちワーカーズコープ・センター事業団が受託しています。現在、広島市内に32団体、約350人の市民が協同労働を実践しています。無償のボランティア活動ではなく、企業などに雇用されて働くでもない、協同労働を活用し団体を立ち上げた方々からは、みんなが出资して、主体的に働く協同労働なら、一部のメンバーの負担にならず、みんなで決めて、みんなで取組むことができる、事業体として持続可能な取り組みが地域ができる。労働の対価を得ることで生きがいややりがいをもって地域課題と向き合えると話しています。事業内容で最も多いものは、生活の困り事支援になります。庭の草取り、剪定作業、網戸の交換、家具の移動、病院や買い物の付き添い、ゴミ出し、精米作業や灯油の運搬など、ちょっとしたことですが、生活には欠かせない仕事を支え合いの精神で行っています。利用された住民からは、有償のお仕事だと頼みやすいとか、地域の人が来てくれるから安心といった声があり、また働いた方々からは、困り事を解決することで住民とより深くつながりをつくれたという喜びの声や、いわゆる給料をもらって励みになるといった声があります。さらに生活困り事支援を行う団体の多くが、地域包括支援センターと連携し、利用者の情報を共有することで、地域の高齢者などの見守り機能の強化につながっています。最近では、子育て世代や、女性たちのグループが増えています。子ども食堂や高齢者の居場所づくりをしていたグループは、収入の柱となる事業を立ち上げようと、自分たちの得意技であるお弁当屋さんを開業しました。このお弁当屋さんには、収入源であるとともに、子ども食堂や居場所に通えない地域の方にも、お弁当を通じてつながりを届けたいという想いや、子育て中でも地域で働く場をつくろうという想いが込められています。また生協の元職員さんが中心となり、空き家となった実家を活用し、地域で育てようと学習支援事業を行う事例があります。5年目を迎えた今、同じ想いで、事業を行いたいという仲間が増えていると聞いています。このような市民による協同労働の実践は、人と地域に必要な仕事を、住民自らが考え、創り出すことで、豊かに暮らし続けられる地域づくりに大きく貢献していると私たちは実感しています。今後は、新しい担い手の確保や収益性の向上などの諸課題に取り組みながら、労働者協同組合を含めた協同労働の実践をますます増やし、協同の文化を広島市に広げていきたいと思っています。

【組織概要】

設立	1986年	直轄広島事業団設立
	1987年12月	日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団
		広島事業所へ組織変更
2023年4月		労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団山陽事業本部へ組織変更

代表者名 田嶋羊子

組合員数 8,000人（広島県内250人）

事業高 260億円（広島県5億円）

所在地 広島市中区本町二丁目6-11

ウエノヤ第7ビル6階5号

TEL 082-208-0327



山陽事業本部本部長 竹森 鉄

「協同組合のアイデンティティと地域共生社会づくり」2023年新春のつどいを開催! 広島県生活協同組合連合会

1月18日(水)、ワークピア広島において、2023年新春のつどいを開催し、会員生協の組合員や役職員、友誼団体など約100名の参加がありました。(実参加とオンライン参加のハイブリッド開催)

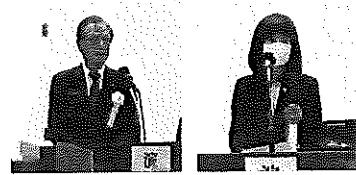
広島県生協連岡村信秀会長理事からの主催者挨拶では、ロシアのウクライナ侵攻以降、大きく変わろうとしている軍備拡大路線等への危惧、もっと学習をして真実を見極めることの大切さ、地域課題としてのコミュニティづくりは「協同と事業のバランス」が大切なことについてふれられ、来賓挨拶では、広島県環境県民局長 新宅郁子様から、平和活動等に取り組んでいる広島県生協連の取り組みに対し感謝の言葉とこれから活動に対する期待の言葉をいただきました。

記念講演は、「協同組合のアイデンティティと地域共生社会づくり」と題して、日本協同組合連携機構(JCA)常務理事 伊藤治郎氏より講演をいただきました。時代の変化に基づき「協同組合のアイデンティティ」がどのように変遷したのか、コロナ禍・ウクライナ侵攻・エネルギー危機など、この間の環境変化に対し、協同組合がそのアイデンティティを再確認しながら、協同組合間の連携を力に地域課題の解決をすすめていくことが大切だということを実践事例も含め学ました。

実践事例報告では、びしゃもん台辻(きずな)くらぶ代表瀬川龍男氏、副代表 横平和美氏より、福祉のまちづくり総合推進事業として協同労働びしゃもん台辻くらぶの取り組みについて報告され、参加者から「広島県内の身近なところにおいて、地域づくりのすばらしい実践事例があることに感動した。」などの感想が出されました。

時代が大きく変わろうとしている中、私たちが「いつまでも安心して住み続けられるまちづくり」を実現するためのヒントをいただいたつどいとなりました。

(報告:広島県生協連 渡辺とおる)



▲岡村信秀
広島県生協連会長理事
▲新宅郁子氏
広島県環境県民局長



▲伊藤治郎氏 日本協同組合連携機構(JCA)常務理事



▲瀬川龍男氏 びしゃもん台辻くらぶ代表

●広島県協同組合連絡協議会(HJC) 学習講演会開催

3月7日、広島国際会議場にて、広島県協同組合連絡協議会(HJC)主催の学習講演会が開催され、広島県内の協同組合(JA・漁協・生協など)12団体20名が参加しました。

講演は、日本協同組合連携機構(JCA)部長 横溝大介氏より「協同組合のアイデンティティーを考える」というテーマで、協同組合の定義や歴史、複雑化する社会問題を解決するために必要な「協同組合間連携」についてお話をいただきました。

グループワークでは、地域活性化に向けて広島県内協同組合間連携で何ができるかなどを協議し、広島県生協連福島守事務局長から「組合員のくらしを豊にしていくためには協同組合間連携が大切であり、これから実践していきましょう」との閉会挨拶で、学習講演会を終えました。

(報告:広島県生協連 渡辺とおる)



●2023年度初級職員研修会を開催しました

広島県生協連は4月13日(木)、会員生協の初級職員(入協1年~3年)を対象にした初級職員研修会を開催しました。

ここ3年コロナ禍において中止や縮小をせざるを得ませんでしたが、今年度は8生協109名が集まり実開催することができました。

広島県生協連福島守事務局長より開催挨拶と「広島県内の生協について」と題して、講義がありました。

次に、生協ひろしま高浦美穂常勤理事より、「生協が進める地域連携の取り組みについて」と題して、生協ひろしまの活動状況や包括的連携協定などを交えた講義がありました。続いて、広島中央保健生協田中敬子専務理事より「医療福祉生協の組織と活動」と題して医療福祉生協の概要、取り組み、活動事例などを含めて講義がありました。

参加者からは、「生協の地域連携の取り組みについて子育て、高齢者支援や利用者さんの思いをどう改善し、負担を軽減することなど理解できた」、「協力し、助け合い、ともに安心できるまちづくりを目指すこと」「3人のレンガ積み職人の話など心に残った」など、感想が多数寄せられました。

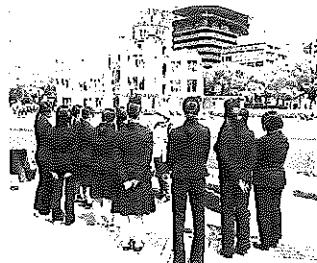
午後からはグループに分かれて碑めぐりガイドから広島平和公園内の碑をめぐりお話を聞き、続いて山田寿美子さんによる被爆証言をお聞きしました。碑めぐりや被爆証言を通して今まで知らなかった当時の状況を知り、関心を持った参加者も多く、「一つ一つの碑の構造や周りにあれる水などに込められた思いなど知ることができた」、「核兵器の恐ろしさや威力、平和の大切さについて再認識できた」「被爆者は原爆の恐怖、苦しみが生涯続くのだと感じました」など様々な感想が寄せられました。

その後生協ひろしまくらし応援グループの佐々木桂一氏より「SDGs～2030に向けて自分たちにできること～」についての学習を行いました。

SDGsの具体的な内容を学び、17の開発目標の中から各々ができるることを意見交換しました。SDGsについて個々の考え方がある中、日々の業務の中に取り組むことができ、それが地域や社会貢献につながることを再認識しました。

今年度も、様々な職種の人との交流や学びを通じて、これから生協職員として第一歩を踏み出す機会を提供することができました。

(報告:広島県生協連 塩野猛) ▲碑めぐりの様子



広島県生協連からのお知らせ

2023「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い

2011年より開催しております『「戦争も核兵器もない平和な世界を』市民の集い』には、行政、市民団体、関係団体、生協組合員・役職員の皆様の多数のご参加をいただいております。この取り組みは、市民と行政が連携して、核兵器をめぐる情勢や被爆体験を聞き、戦争も核兵器もない平和な世界を次世代に継承するために、市民6団体で企画し、今年で13年目となります。

コロナ禍の3年間は、中止もしくは新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン中心の開催としていましたが、今年度は実参加を中心としながらも、オンラインによる視聴もできるようにすすめています。

ロシアのウクライナへの侵攻が長期化している中、核兵器による恐怖がより現実的なものとなっており、5月に開催される「G7 広島サミット」が核兵器を取り巻く世界情勢に何を発信するのかなど、各行政、会員生協及び広島県被団協等、実行委員会構成6団体の皆様と共に共有し、これからの方針を明らかにして行動することが重要になっています。是非ともたくさんの皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

名 称／2023「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い

日 時／2023年 **6月7日(水)** 10:30～12:10

会 場／エソール広島研修室（おりづるタワー10階）

＜オンライン参加希望の方＞申込時にアドレスをお知らせください。

招待メールをお送りします。

参 加／約200名（県内自治体首長及び職員、実行委員会構成団体会員、一般市民）

（会場100名、オンライン参加100名）

申 込／下記二次元バーコードから、5月14日(日)までにお申し込みください。

内 容／開会式典・特別講演・市民団体活動報告

共 催／（公財）広島県男女共同参画財団

後 援／広島県、広島市、（公財）広島平和文化センター、平和首長会議



小山美砂（こやま みさ）ジャーナリスト
1994年：大阪府生まれ。

2017年：毎日新聞社入社 広島支局に配属。

原爆報道キャップとなった2019年から、

当事者の証言を伝える連載「区域外の被

爆者を訪ねて『黒い雨』の原告は訴える」を開始。

2023年：毎日新聞社退社 フリーへ

著書「黒い雨」訴訟（集英社新書）

ごあいさつ／湯崎英彦様（広島県知事）

特別講演／「戦争も核兵器もない平和な世界を実現していく第一歩は、原爆被害の実態を直視することから」

講 師／小山美砂様（ジャーナリスト）

活動報告／中島常（広島医療生活協同組合健康まちづくりセンター課長）

「広島医療生協における“黒い雨”的取り組み報告」（仮称）

後 援／広島県、広島市、（公財）広島平和文化センター、平和首長会議

・参加申し込み二次元バーコード▶

・PCからのお申し込み▼

forms.gle/GsL6VwmEqbh4tLJ27



公告

広島県生活協同組合連合会は、2023年度通常総会を下期の通り開催いたします。

1. 開催日時 2023年6月21日（水）13:00～14:00

2. 開催場所 ワークピア広島 芙蓉（広島市南区金屋町1-17）

3. 議 題 第1号議案 2022年度活動報告ならびに決済報告承認と剰余金処分案承認の件

第2号議案 2023年度活動方針ならびに収支予算案決定の件

第3号議案 役員選任の件

第4号議案 役員報酬決定の件

4. 代 議 員 総会代議員選出基準にもとづいて、3月末組合員数によります。各代議員数は、会員生協にお知らせします。

5. 役員選任 定款第20条、第21条、第22条にもとづき、役員選任を行います。役員に推薦すべき候補者は、役員推薦委員会で決定し総会に報告します。

広島県生活協同組合連合会 会長理事 岡村 信秀

第4回理事会報告

■開催日 3月3日

■出席 理事17名中13名出席（内Web会議システム出席6名）

□議決事項

全国地域包括ケアシステム連絡会への加入について／賛助会員の理事会オブザーバー出席について

□協議事項

2023年度通常総会関連事項／2023年度県連体制について／2023年度県連研修（案）について／2023年度機関会議日程（案）について／2023戦争も核兵器もない平和な世界を市民の集いについて／2023市民平和行進について

□報告事項

初級職員研修会の開催案内／2023ピースアクションinヒロシマ実行委員会報告／三生協連携協議会報告／2023年新春のつどい開催報告／けんこうチャレンジ2023について

第4回組織平和委員会報告

■開催日 2月16日

□主な協議・報告事項

2023ピースアクションinヒロシマ企画について／2022年度活動のまとめと2023年度方針／2023戦争も核兵器もない平和な世界を市民の集い及び2023年度平和活動キックオフ集会の開催について／2023市民平和行進について

三生協連携協議会報告

■開催日 3月30日

□主な協議・報告事項

社会福祉法人協同福祉会コンサルティング報告／各生協報告及び情報交換

広島県からのお知らせ

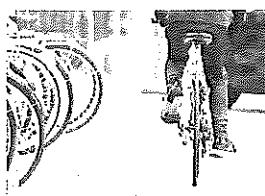
自転車のルールが変わりました！

コロナ禍でフードデリバリーなど自転車の利用ニーズが増えています。一方で、県内の交通事故のうち、自転車に関係する事故は全体の約2割を占めています。また、危険な運転や自転車事故に伴う高額の賠償事例が発生しています。自転車のある生活を安全に、そして積極的に自転車に乗ってもらうことを目的に、広島県では「自転車の活用の推進及び安全で適正な利用に関する条例」を制定しました。

自転車保険が義務化になりました

上記条例により、令和5年4月1日から、すべての自転車利用者に対し、自転車保険の加入が『義務化』となりました。自動車保険や火災保険の特約で自転車保険がついていることがあります。

まずは今加入している保険内容を確認し、加入していない方は、自転車保険への加入をお願いします！



ヘルメットの着用が努力義務化になりました

また、道路交通法の改正により、令和5年4月1日から、すべての自転車利用者に対し、自転車の乗車用ヘルメットの着用が『努力義務化』となりました。自分の身を守るためにヘルメットの着用をお願いします！

お問い合わせ

詳しくは 広島県 自転車条例 で検索！
広島県 道路企画課 082-513-3891 / 県民活動課 082-513-2723

適格消費者団体NPO法人消費者ネット広島からのお知らせ

「消費者トラブルの手口を知りましょう」②

通信販売での「定期購入」に関する相談が、全国の消費生活センターに引き続き多く寄せられています。2022年6月に改正特商法が施行されたにも関わらず、急増しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

相談内容

低価格で購入したつもりが、4回購入が条件の定期購入だった

1週間前にスマホで通常価格1万円以上する美容液が初回限定で約2,000円で購入できるとの広告を見て、販売サイトにアクセスしてチャット形式の入力画面で注文した。しばらくして商品が届いたが、同梱されていた納品書に、次回お届け予定日についての記載があるのに気づき、驚いて販売業者に連絡したところ、「初回を含め全4回購入が条件の定期コースになっている」と言われた。そのような注文をした覚えがないと伝えたところ、「解約を希望するなら約1万円の解約手数料を支払う必要がある」と言われた。定期コースであることも、解約手数料がかかることも知らなかった。解約手数料を支払わずに解約したい。どうすればよいか。

(50歳代 女性)

※国民生活センター 2023年2月受付相談より

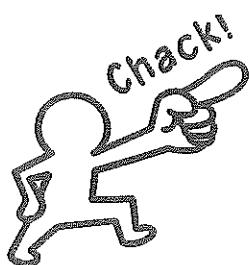
アドバイス

ネット注文する際は、取引条件の細部をしっかり確認しましょう

ネットで注文する場合は、契約条件チェックリストを参考に、契約条件の細部をしっかり確認しましょう。低価格を強調したり、注文を急がせたりする販売サイトは特に警戒して確認が必要です。特商法では、販売業者は取引における基本的な事項を最終確認画面等で明確に表示することが義務付けられていますが、消費者に誤解を与える恐れがある、分かり易いとは言えない表示も見られます。

「いつでも解約できる」と表示されていても、容易に解約できないケースも

実際に解約しようとしても、電話がつながらなかったり、オンラインでの解約手続きがうまく進められなかったりと、容易に解約できない業者も存在します。「お試し」等の誘い文句にとらわれず、まずは販売業者の情報や評判を入念に確認しましょう。



- 定期購入が条件になっていませんか？
- (定期の場合)継続期間や購入回数が決められていませんか？
- 支払い総額はいくらですか？
- 契約の際の連絡手段を確認しましたか？
- 返品条件、解約条件を確認しましたか？
- お届け予定日や利用規約の内容を確認しましたか？

※上記の契約条件が記載されている画面をスクリーンショットで保存しましょう。

不安な時、お困りの際は最寄りの消費生活センター（☎ 188）にご相談ください。



岸房 康行 (きしふさ・やすゆき)

岸房 康行 (きしふさ・やすゆき)

1948 年生

1971 年 立命館大学産業社会学部 卒業

1971 年 広島県信用農業協同組合連合会 入会

企画管理課長、人事課長、広島県農業協同組合中央会企画広報室長

2008 年 広島県農業協同組合中央会 専務理事を歴任、退職後

株式会社広島ドラゴンフライズ顧問、代表取締役社長、相談役 (現職)

その他に、広島県家庭婦人バスケットボール連盟会長、NPO 法人心豊かな家庭環境をつくる広島21理事長 (現職)、公益社団法人青少年育成広島県民会議理事 (現職)



スポーツには力がある! ドラゴンフライズはバスケを通じて広島を元気に!

ドラゴンフライズとは

ドラゴンフライズは、2013年4月2日に清水敬司(元専務取締役)が「バスケットボールトップリーグ“NBL”」に所属するプロチームを広島に立ち上げる会を設立したことから始まります。広島県バスケットボール協会にプロチーム設立の協力要請、資本金3,000万円調達を経て、同年8月にNBL理事会および社員総会が広島の参入を承認。2013年8月26日チーム名を「広島ドラゴンフライズ」とし、10月2日運営会社「株式会社広島ドラゴンフライズ」が誕生しました。

広島にバスケットボールでつながる風景を

ドラゴンフライズ設立に直接かかわることはませんでしたが、Bリーグ参入するために力を貸してほしいと声がかかりました。広島には野球、サッカー、バレーボール、ハンドボールと数々のトップスポーツチームがあるのに、バスケットボールチームがない。全国主要都市にバスケットチームがあるのに、広島にないのは大きな損失ではないか。スポーツの力で人をつなげたいとの思いから引き受けることにしました。

私はバスケットの経験はありませんが、縁はあるんです。妻は高校時代バスケット部のキャプテンでインターハイに出場し、娘もバスケット部のキャプテンとして中国大会で優勝しています。ドラゴンフライズの社長を引き受けた時には、2人から「バスケットやったことないのに」とからかわれました。これまで娘の試合を見てきて、バスケットはスピードがあり面白いと思っていました。やったことのない私が面白いと思ったのですから、他の人もバスケットを見てもらえれば、きっと喜んでもらえる、楽しんでもらえると確信を持っていました。そこで引き受けたわけですが、当初は実績もないため資金繰りが厳しく、スポンサー獲得のために広島県内を走り回りました。

スポーツには教育力がある! スポーツで子どもたちを元気に!

ドラゴンフライズが強くなっていくにつれて、資金繰りもよくなり、いい選手が集まってるようになりました。おかげさまで広島にドラゴンフライズありといわれるまでになり、バスケットを通して全国の皆さんにもっと広島を知ってもらえるようになったのではないかと思っています。

広島のプロスポーツはトップクラスの実力がありますが、

いま問題になっているのが子どもたちのスポーツ力です。特に高校生の競技力が急落しています。昨年秋の栃木国体の少年種別の得点は全国ワースト2位。原因と言われているのが、コロナ禍での部活制限です。広島は全国で最も早く「まん延防止等重点措置」の適用をスタートし高校生は十分なスポーツ活動をすることができなくなりました。現在、部活は再開されていますが、一度ブレーキがかかつてしまふた活動を元にもどし強化を図るのは厳しいといわれています。このままではスポーツの魅力が薄れ、運動しなくなったり、県外の強い学校へ流出してしまう可能性も出てきます。

そこで広島県のスポーツ推進課が学校や先生と連携を図りながら強化に乗り出していますが、ドラゴンフライズも力になりたい、力になれるのではと思っています。ドラゴンフライズのプレイを見てバスケットに憧れをもってくれれば学校でバスケットをやってくれるかもしれません。

スポーツには教育力があります。団体競技は自分一人が強くなっても勝てない。協力し、助け合い、励ましあうことで強くなっています。体だけではなく心も強く、優しくなっていくのです。近年、子どもの自殺が増えていますが、仲間がいれば助かったかもしれません。選手同士のつながりが、やがて地域のつながりへと広がっていく。人がつながっていくことが、地域が、人が、広島が元気になると思います。

広島がもっと元気になるように、これからもドラゴンフライズは頑張っていきます。



1945年8月に広島市と長崎市に投下された原子爆弾によって被害を受けた、被爆者（被爆者健康手帳所持者）の方々の数は昨年、12万人を下回り、平均年齢84.53歳になったと言われています。

被爆者援護法に定める「被爆者」とは、被爆者健康手帳を所持している方をいいます。

しかし、78年が過ぎた現在においても、自ら被爆したことを黙っている方、「黒い雨」を浴びながらも被爆者として認められていない方など、実態はもっと多くの方が原爆の被害を受けています。無差別に殺され、生き残っても家族を失い、健康被害や差別に苦しんでいるヒバクシャ。

「戦争も核兵器もない平和な世界を実現していく第一歩は、原爆被害の実態を直視することから」

日本も含めG7広島サミットもそこからスタートして欲しいと思っています。（渡辺）